



カスハラをぶっとばせ！

会社は社員の心と身体を本気で守れ！！

絶対に許さないぞ！！

蘇我運輸区の新聞では何度か取り上げてきましたが、この紙面では初めてです。

カスタマーハラスメントとは、客が従業員に対し、過剰で理不尽な要求をしたり、人格を否定したりするもので、社会的にも

深刻化し、各メディアでも取り上げられるようになりました。

国や企業で作る団体は、対応マニュアルを作成、公表し、対策に乗り出したことで、この会社ではどうなんだと、旧蘇我運輸区分



を持たせてほしいという声が現場で昔から上がっています。真面目で若い社員が当社でも標的にされているこ

会の新聞で、昨年より数回に渡って特集し、2月5日の支社団交でも訴えてきたところがあります。詳細は「団交情報・千交第2号、No,841」を参照していただくとして、支社側からも概ね良好な回答が得られたと思います。ハンドブックや研修などで広く展開する等の対策も必要ですが、それ以上に「頭を下げてりゃ良いんだ」という風潮を改善し、理不尽なクレームに対しては、もっと強い権限を

ことから、蘇我運輸区班では他労組との交流会の際にも、資料を渡し、共に取り組む旨の了承を得ました。是非、各職場で取り上げて下さい。

うたてつ ノスメ24

喝采 (ちあきなおみ) 1972年9月

いつものように幕が開き
恋の歌歌う私に 届いた報せは
黒い縁どりがありました
あれは3年前
止めるあなた 駅に残し
動き始めた汽車に一人飛び乗った
ひなびた街の屋下がり
教会の前にたたずみ 喪服の私は
祈る言葉さえ失くしてた

つたがからまる白い壁
細い影長く落として 一人の私は
こぼす涙さえ忘れてた
暗い待合室 話す人もない私の
耳に私の歌が 通り過ぎてゆく
いつものように幕が開き
降りそそぐライトのその中
それでも私は
今日も恋の歌歌ってる

1969年のデビューの、これは13枚目のシングルで、日本レコード大賞を受賞した大ヒット曲。作詞は吉田旺(おう)、作曲は中村泰士で個人的に好きな作曲家でもある。歌手本人が抱えた辛い過去と、歌詞が本当に偶然重なってしまったという逸話もある。歌詞を読めば分かるように、この歌の主人公は歌手である。

鉄道ワードは1番に2つあるのみだが、それでも強い印象を残している。それ以上に強いのが「黒い縁どり」「喪服」「暗い待合室」といった言葉で、歌謡曲としては考えられないほど「暗さ」が強調された。こんなうちひしがれた状況でも、ステージに上がり、幕が開いたら「お客さんの前で全力で歌う」「時には笑顔で応える」といった華やかな歌手稼業の裏の過酷さも表現され

た異色作となった。ステージに上げれば自分の辛さなど隠して歌わなければならない、その先には「降りそそぐライト」即ち拍手喝采(お客さんの満足、笑顔、期待等々)が待っている・・・という、いやあ、すごい歌だなあ。この歌に「喝采」というタイトルを付けたセンスは凡人にはあり得ない。歌唱の抜群の上手さ、曲、演奏も一丸となって、どんなに苦しくても前を向いて力強く生きることの大切さを教えられた気がする。名曲中の名曲だ！！

名島さん、お疲れさまでした！

千葉運輸区車掌の名島孝志さんが、2月29日、3月の誕生日を前に無事、最終乗務を終えました。

